

Title	Alfons Dopsch : The Economic and Social Foundations of European Civilization(1937, Kegan Paul, London)
Sub Title	
Author	近山, 金次(Chikayama, Kinji)
Publisher	三田史学会
Publication year	1938
Jtitle	史学 Vol.16, No.4 (1938. 4) ,p.212(710)- 213(711)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19380400-0214">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19380400-0214</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

般及び教育學の廣範圍にわたり、然も「ヴェルサイユ和約以後獨逸の十五年」の論文の如き最近世史にまで及んで居ることを知り、そのうむことなき研究態度には敬服の念を起さざるを得ないのである。この論文集も先生の研究の廣範圍に互れる如く、その交友の多方面にあるため又非常に廣範圍に互り、之を一々紹介することは到底なし得ないので、ここには單に題目をあげるにとどめ好學の士の本書につき讀まれんことを希望するのである。

伽藍式より見たる天台宗と眞言宗

石田茂作

明將周鶴芝、馮京第の日本乞師に就いて

石原道博

關東地方の地形區分に就いて

花井重次

近世の森林經濟と酒樽

鳥羽正雄

所謂ビスマルク體制の端緒に就いて

長壽吉

村上源氏の使命と通親の事業

龍 肅

和語陰陽錄の成立と構造

乙竹岩造

ルーテルの Sermon von Wucher

太田 廣

文久元年米國政府の我國に對する示威行動提議の意義

大塚武松

會津藩に於ける教學としての吉川神道

渡邊貞雄

奥の御館藤原氏と京洛文化の輸入

菅野義之助

新潟縣枋尾織物の發生的研究

武見茅二

地圖より見たる長崎居留地の變遷

田中啓爾

後水尾天皇宸翰逆耳集について

辻 善之助

イスタンプール名稱考

内藤智秀

經濟的ルネサンスに於ける『銀の支配』について

中川一男

水戸學の新史料と新考察

中山久四郎

上州利根、吾妻兩郡境界論争の地理的意義

内田寛一

良俗違反の意義

梅原重厚

梁の武帝の佛教信仰について

山崎 兎

湘南砂丘地帯の農作

山本幸雄

教育上の自由と統制

馬上孝太郎

埴輪より見たる上古時代の葬禮

後藤守一

元代の僧侶と社會

有高 巖

宋會要の編修に關する宋會要の記載について

淺海正三

モンロー主義とラテン亞米利加諸國及汎米主義

齋藤清太郎

十王信仰に關する諸問題及び閻羅王受記經

酒井忠夫

調庫雜考

喜田新六

鎌倉時代に於ける東大寺の學園

木代修一

郡司武士化の根底的要素に關する考察

宮城輝昌

頼山陽の藝術趣味について

下村三四吉

倭姫命考

肥後和雄

ハットウシリシユ三世と彼の王后プロウヘバシユの祈願文

杉 勇

熊澤了介(蕃山)の學問とその藝術論

松本彦次郎

(田中荆三)

Alfons Dopsch: The Economic and

Social Foundations of European

Civilization (1937, Kegan Paul, London)

中世初期に關する經濟史家として最も有名な Altons Dopsch

の名著 *Die wirtschaftliche und soziale Grundlagen der europäischen Kultur-Entwicklung. I. Teil (1923), II. Teil (1924)* の英譯が今度出版せられた。當書は申すまでもなく同氏が前に (1912—13) 出版し『ドイツ經濟史の新基礎建設の必要』を呼號した *Die Wirtschaftsentwicklung der Karolingerzeit 2 Bde.* と共に其の出版當時 (1920) から中世史の學界に種々な問題と大きな波紋を投げかけた一大著述であり、その取扱ふ原始ゲルマン國家の政治經濟社會組織に就て Waitz 以來のドイツ學界の定説を覆へずと共に、佛の Fustel de Coulanges の退化類廢説をも拒けて積極的な發達進化説を強調したものであつた。本書はその第二版 (1923—24) の抄譯である (例へばイギリスの地名に關する研究などは更に便利な論文が幾らでもあることを理由に特に省略されてゐる)。巻頭に著者自身の一九三七年一月に書いた序文が載せられてゐて此の翻譯書を權威あるものたらしめてゐる。

著者 Dopsch は一八六八年ボヘミヤに生れ、一八九二年 *Monumenta Germaniae Historica* のカロリンガ朝文書出版の研究員となり、それから一九〇〇年ウィーン大學の教授に轉じて今日に及んだ人である。根本史料の嚴正なる批判を第一とする氏が在來のドイツ社會經濟法制史家の概論的定説にあきたらず、最新の史料に基いて一々これを論駁しつつ、その精緻なる研究の成果を記述して行く態度は史學研究者にとつて頗る暗示的であり且つ教訓的であることを改めて感ぜざるを得ない。(近山金次)

### American Nation Series : published by the Pan American Union,

パン・アメリカン・ユニオンは合衆國、メキシコをはじめ中南米の共和國二十一を一丸とする國際的協會で、加盟諸國の間の貿易と親交と理解と平和の増進とを目的として華盛頓に設置されてゐるものであるが、その目的を達成する手段として加盟諸國に關する報告書や小冊子を發行してゐる。表題の叢書は加盟諸國即ちアルゼンチン、ボリヴェア、ブラジル、チリー、コロンビア、コスタリカ、キューバ、ドミニカ共和國、エクアドル、サルヴァドル、グアテマラ、ハイチ、ホンヂュラス、メキシコ、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ペルー、合衆國、ウルグアイ、ヴェネズエラに關する簡単な案内書で、一國一冊宛即ち全部で二十一冊あり、各冊五十一頁以内であるが、内容は簡單ながら各國の地理、歴史、政治、産業、教育、交通等の各方面に就て、極めて明瞭に記述し、一讀諸國の現状を了解することが出来る。本來旅行者の便に供せんが爲に刊行されたものであらうから、理論的なものは之を期待する由もないが、地誌の材料として貴重な文獻たるを失はない。刊行の年月は必ずしも一定してゐないが、多くは最近兩三年内のもので、一九三二年刊行の分が最も古い。(有賀春雄)